

## 米メディアが“スンニ・ムスリム軍”と呼ぶ IS は“メイド・イン・アメリカ” ——スンニ・イスラームとは何の関係もない

【訳者注】IS 過激派軍団といわれているものの正体について、ここで何度か翻訳紹介しているが、このイスラム専門家による論文は、その最も詳しい説明を提供する。先日の NHK テレビの「ニュース深読み」という番組で、答えなかったナゾの一つ——なぜアメリカは敵だと宣伝する IS をあまり攻撃しないのか——の答えがここにある。それは IS が、彼らの手塩にかけて作り上げた大切な手先だからである。“イスラム過激派”とは、CIA-NATO 傭兵軍団だったという話である。彼らのほとんどが欧米人だという話は初めて聞いた。やはり覆面は必要なのであろう。ほかにも、いくつかのナゾが解けるように思う。

By Prof. Henry Francis B. Espiritu  
Global Research, March 19, 2015



「スンニ・フィーク」(Sunni fiqh) と呼ばれる古典的な主流派のイスラム法思想を、ライフワークとして研究して私にとって、西洋の主流メディアが、イラクやシリアのいわゆる“イスラム国”の過激派軍団に、「スンニ派」という形容辞をつけて、反イスラム・プロパガンダをやっているのを見るのは悲しいことである。

私は自信をもって言えるが、ISIS はスンニ派ではない。なぜなら ISIS がこれまでやってきたことのすべては、「スンニ・イスラーム」の倫理的教えの逆を行くことだからである。

私はスンニ・イスラームを、基準的イスラム教と考えており、これは「模範的仲間」と呼ばれ、イスラム共同体すべてによって民主的に選ばれた「正しく導かれたカリフ」としての、予言者ムハンマドの弟子たちによって実行されている。反イスラムの西洋のメディアが、

ISIS の野蛮性と非人間性を、基準を意味するイスラム用語“スンニ”（文字通りは、正統的イスラム教徒）と同一視するとき、彼らは単に、アメリカの覇権主義的利益に奉仕しているにすぎない。そのやり方は、ネオ植民地主義・覇権主義的な暴力によって、ムスリムたちへの反感をますます掻き立て、中東や他のムスリム世界で優勢なスンニ・イスラームを、効果的に貶めることによっている。

私は 4 人のすぐれた古典スンニ・イスラームの法学者だった、イマーム＝指導者（Abu Hanifa, Shafi'i, Malik, Ibn Hanbal）のシャリーア原理を読んできたが、彼らの論文の中に、現在 ISIS によって犯されているような野蛮行為や非人間的行為を正当化する文言を、わずかでも見たことがないと証言できる。

実は、これら 4 人の古典的スンニ・イスラーム指導者の論文から見えるのは、ISIS 軍団のもつ野蛮さへ激しい憎悪である。そこで、なぜ ISIS の戦闘行為全体を“スンニ運動”と呼ぶことが不当であるか、決して ISIS 軍団を“スンニ派軍団”と呼んではいけないか、したがって一般に、西洋の主流メディアのイスラム教への誹謗が、いかに的外れであるかの理由を、次に述べる――

1) まず ISIS は、イラクとシリアのスンニ・ムスリムの、多くの聖堂を破壊している――イラクのニナワ（ニネヴェ）の預言者ユヌス（ヨナ）の聖堂やモスク、イラクのモスルのオズにある預言者アユブ（ヨブ）の聖堂など、そのわずかの例である。彼らは、イラクのモスルやキルククあたりの、またシリアのダマスカス、アレッポ、コバネにあるスーフィ・スンニ・ムスリム聖者たちの神聖な墓地を破壊した。

2) 聖なるコーランは、ムスリムは、いかなる宗教の敬拝の場所も壊してはならないと命令している。特に、アール・ウル・キタブ（文字通りには、聖典をもつ人々）すなわちユダヤ教徒やキリスト教徒は、冒すべからざるもの、むしろムスリムによって保護されるべきものである（Al-Qur'an 22: 40-41）。にもかかわらず ISIS はキリスト教の教会を野蛮に破壊した。またイスラム教は、聖なるコーランを通じて、宗教においてはいかなる強制もあってはならないと宣言している（Al-Qur'an 2: 256）。にもかかわらず、この ISIS 軍団は、ヤジディ教徒やキリスト教に、改宗するか死ぬかを迫っている。ただ非常に不思議なことに、ユダヤ教徒が ISIS によって強制改宗させられたというニュースがない。またモスル、アレッポ、キルクク、それにイラク北部の都市のシナゴーク（ユダヤ教礼拝所）は決して壊されなかった――このあたりには、ユダヤ人居住者とシナゴークが多いにもかかわらず。これは実に不思議なことだ！（See, *The Majlis: Council of Ulama in South Africa*, p.8）

3) 古典的スンニ・イスラームのシャリーア・イスラミアー（神の法）が聖なるコーランに見られ、聖なるコーランは、市民と非戦闘員の生命は冒すべからざるものと明確に言っている（2: 256, 5: 69）。この機会にこそ、聖なるコーランは引用されるべきである——「アラーは、あなたを抑圧もせず、住処から追い出しもしなかつた人々と戦うことを禁ずる。あなたは彼らに同情を示し、正義を明らかにすべきである。まことにアラーは正しい人々を愛する」（60: 8）。罪のない非戦闘員を殺すことは、防衛戦争に関するすべてのスンニの掟において禁じられている。スンニ・イスラームの最初のカリフ Sayyidina Abu Bakr al-Siddiq は、カリフ国の軍隊に対して、次のような掟を書き遺した——「私は次の 10 項目をあなた方に指示する——女、子供、老人、また病弱者を殺すな。実をつける樹木を切り倒すな。どんな町も破壊するな、そして武器を持たぬ者たちに触れるな。降伏して、決められた避難場所にいる者たちを殺すな。あなた方に降伏するすべての者を安全に保護すべきである」（See, Imam Malik's *Muwatta'*, "*Kitab al-Fatawah-ul-Jihad-e-Abu Bakr Siddiq*" 「アブ・バクル・シディクの戦争の正しい行いの本」 pp. 37-39.）

4) 私の研究の及ぶ限り、いわゆる ISIS カリフ国の中に、スンニ・イスラームの観点から見て、彼らのジハード（聖戦）の合法性について、合法的な掟を明瞭に確立したスンニ学者もイスラム法学者もいない。彼らの指導層には、一人のすぐれたイスラム学者もいない。実は、イラクやシリアのすぐれたスンニ学者たちは、ISIS が 300 人以上のスンニ・イマームを殺したとして弾劾している。これは、ISIS がシリアやイラクのスンニ派の保護者であるかのように主張するウソを、効果的に暴露するものだ。イラクやレヴァント地方の多くのスンニ聖職者は、ISIS の戦闘家たちを、非ムスリムにもスンニ・ムスリムにも野蛮行為を働いたとして、「イスラムの埒外にあり、したがってイスラム信仰から破門された者たちだ」と宣言している。

(See, <http://www.breitbart.com/national-security/2014/07/03/sunni-mufti-isis-and-affiliates-have-killed-over-300-sunni-imams-and-preachers/>)

5) 合法性の根拠としての統治について、スンニ・イスラームの古典的掟を用いるならば、いわゆる ISIS カリフ国は合法性をもたない。純粹で本物のスンニ・カリフ国とは、ムスリムの全体の明示的で公然たる忠誠によって、全イスラム共同体の明白な合意に基づいて設立されたものである。ISIS は一方的に、彼らのいわゆるカリフ Al-Baghdadi を、“すべてのムスリムのカリフ”として、密かに宣言したもので、全ムスリム共同体がその選挙に参加したのでもなく、彼をカリフに選んだのでもなく、彼に忠誠を誓ったのでもない。

6) ISIS は、イラクやレヴァント地方で戦争をするために、ヨーロッパから戦闘員を募集するのには成功したが、イラクやレヴァント地方のスニ信仰者の、草の根支持を得ることはできなかった。更に彼らは、イスラム信仰の枠から外れているとして ISIS を強く非難した、スニ派のアラブやクルドの聖職者の支持も得られなかった。

(See, <http://www.breitbart.com/national-security/2014/07/03/sunni-mufti-isis-and-affiliates-have-killed-over-300-sunni-imams-and-preachers/>)

実は、これらの ISIS 軍団の大部分は、オーストラリア、イギリス、アメリカ、ベルギー、フランス、ドイツ、チェチェンといった、ほとんどがヨーロッパから来た者たちで、したがって、ほとんどのイラク人やシリア人は、ISIS を、アメリカやイギリス、その他ヨーロッパから来た高度な兵器や弾薬によって、彼らを強制し、野蛮さをもってアラブの土地に居座った外国の軍隊とみなしている。

## ISIS がスニ派軍団でないとしたら、彼らは誰の手先なのか？

いったい誰が彼らを雇って、中東を混乱に陥れたのか？

なぜ米政府とその NATO 同盟国は、イラクやシリア、レヴァント地方の国で、ISIS と真剣に戦うことができないのか？ 理由は、ISIS がアメリカの創った怪物だからである！ ISIS のカリフ国は決してイスラムのカリフ国ではない。

それは、世界のムスリムたちに対して何の権威ももたない、“アメリカ産のカリフ国”である。

CIA が、アフガニスタンやパキスタンの「タリバン」から、中東の「ジェマア・イスラミヤ」や「アルカーイダ」、さらにナイジェリアの「ボコ・ハラム」に至るまで、すべての名の知られたいわゆる「ジハーディスト」グループを、常に背後から支援しているのは、知られた事実である。

アメリカが、自分の創ったこうした怪物たちと、決して真剣に戦おうとしないのは当然だろう。

アメリカは、すべての国際的テロ・グループの目に見えない指令者であって、そのため、これらの怪物たちは、無慈悲に、かつ罪を問われることなく、人類に対する犯罪を実行することができる。これらの怪物は、アメリカのドルによって生かされ、支援され、有能だが密か

な人形使いの名人、すなわち世界制覇を狙う目に見えない手によって、操られている！

NATO は CIA の作戦担当者と邪悪な関係を結んでいて、CIA は現在、“アラブの春”と呼ばれる彼らの計略の一環として、世俗的で社会主義的なシリアを転覆させるために、ヨーロッパから集まった何千もの ISIS 戦闘家を、訓練し、武装させ、金銭と物資の支援をしている。“アラブの春”とは、中東と中央アジア、その石油資源とパイプライン回廊を、帝国主義的アジェンダの一部として征服するための、ある隠れたイデオロギー的作戦に過ぎない。(アフガニスタンを通るパイプラインについては、Michel Chossudovsky, “*American War on Terrorism*,” chapter 5, pp. 65-91 を見よ。)

したがって、この ISIS 軍団を支援しているのは誰か、誰が彼らを装備しているのか、誰が彼らにこれほど潤沢にカネを与えているのか？

何の目的で彼らは、こうした軽蔑すべき行動をしているのか？ もし彼らが本当に、イスラム教とムスリムたちの権利のために、必死に戦うイスラム戦士だとしたら、ではなぜ彼らは、スンニ派ムスリムのモスクや、スーフィ・ムスリムの聖堂や、また彼らの宗教仲間であるシーア派ムスリムの祈りの会堂を、爆撃するのであるのか？

これは中東において戦争シナリオを設定し、アメリカの軍産複合体のグローバルな兵器産業が、これまで通り繁栄し儲かるようにするという話なのだろうか？

これらは冷静に考えてみるべき関連質問である。

(ヘンリー・フランシス・エスピトゥは、セブ市、フィリピン大学の哲学およびアジア研究准教授。彼の研究対象にはイスラム研究、特に、スンニ法、Al-Ghazali の著書、トルコ・スーフィズムも含まれる。e メールアドレス：[esprituhenryfrancis@yahoo.com](mailto:esprituhenryfrancis@yahoo.com))